

施策評価シート(平成30年度)

(基本施策の大綱) 2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実

(基本施策) (3)高齢者の地域生活支援の充実

(評価担当者)

健康福祉部長 井分 信次

基本施策が目指す姿

高齢者が、必要な介護・福祉サービスを受けながら、住み慣れた地域で安心して暮らしています。

関連する分野別計画

亀山市高齢者福祉計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	在宅医療を実施する市内医療機関数	機関	9	H27	10	10				15
2	総合事業で高齢者に通いの場を提供する地域の団体等の数	団体	-	H27	100	112				30
3	認知症初期集中支援チームの高齢者及びその家族への支援件数	件	1	H27	3	10				12
4										
5										

市民アンケート調査

項目	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1 高齢者が生きがいを持って安心して生活できる環境が整っている	重要度	1.36	1.25	前回調査に比べ、2項目ともに、満足度が上昇しているのは、地域包括支援センターでの専門職における相談体制を充実させ、H29から総合事業を開始したことから、高齢者に通いの場を提供する団体が増え、高齢者の通いの場の創出が進んだ結果であると考えられる。
	満足度	0.56	0.47	
2 高齢者への介護サービスが充実している	重要度	1.43	1.38	
	満足度	0.14	0.05	
3	重要度			
	満足度			
4	重要度			
	満足度			
5	重要度			
	満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	地域包括ケアの推進として、高齢者の医療、介護、地域生活などを一体的に支援するため、地域包括支援センターの運営を社会福祉協議会に委託したことにより、多職種と連携が図られ、専門職が確保でき、相談機能が向上した。また、認知症高齢者対策として、認知症カフェの実施や認知症初期集中支援チームによる高齢者への支援を行った。介護予防の推進としては、昨年度より介護予防教室やサロン、体操教室などの開催回数や参加者が増加したことから、高齢者の通いの場が増え、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことにつながったため、総合判定をBとした。
反省点・課題	
地域包括支援センターの運営を社会福祉協議会に委託し、地域包括ケアの体制は整ったが、さらに、地域の実情を汲み取り支援していく体制の強化を図る必要がある。また、高齢者やその家族だけでなく、市民に広く地域包括支援センターの存在や機能を周知し、相談しやすい体制にしていかなければならない。高齢者の支援については、都市部、山間部等、地域によって高齢者のニーズが異なるため、地域の実情に応じた支援が必要である。全体として、引き続き、『医療・介護・予防・住まい・生活支援』が包括的に確保される地域包括ケアシステムを深化させる必要がある。なお、高齢者タクシー料金助成事業については、市民の日常生活における交通手段を当該事業で対応していくことは限界があり、公共交通(乗合タクシー等)の利活用が必要である。	

今後の展開方針

高齢者が住み慣れた地域で自立して暮らしていくために必要な医療、介護、地域生活を一体的に支援するため、地域包括支援センターの活動を把握し、適切な指示・助言を行う。また、同センターの認知度を向上させるために、広報活動を充実させ、民生委員や福祉委員の協力を得て、市民への周知を図り、高齢者の困りごとを気軽に相談できる窓口であることを伝えていく。さらに、地域の高齢者のニーズ(フレイル対策など)や地域資源の状況を把握し、取組状況や効果を検証しながら事業内容を見直し、生活支援コーディネーターの機能を強化するとともに、地域の実情に応じたサービスの開発や担い手の育成・支援を行いつつ、健康寿命にも着目し、次期、亀山市高齢者福祉計画に繋げる。なお、高齢者の外出支援については、個々の心身等の事情を勘案し、事業に取り組むこととする。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		地域包括ケアの推進					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	多職種連絡会議や情報共有ツールICTの運用・利用促進を進め、医療・介護関係者の連携強化に努めた。平成30年度から地域包括支援センターの運営を社会福祉協議会に委託し、多職種との連携が強化され、地域包括ケア会議を行うなど情報共有を図った。		多職種連携強化、在宅医療連携システム「かめやまホームケアネット」を利活用し、在宅療養者の支援を推進した。地域包括支援センターの運営を社会福祉協議会に委託したことにより、医療・介護にかかわる様々な連携強化が図られ、地域包括ケアの体制整備の強化が進んだ。			
		まずまず進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17047	介護保険地域支援事業(総合事業)		主	32,740 / 27,537	A	A
	17048	介護保険地域支援事業(任意事業)		主	23,372 / 20,008	B	B
	17050	地域包括支援事業(社会保障充実分)		主	13,168 / 11,156	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		介護予防の推進					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	高齢者が介護を受けずに暮らしを営めるよう、介護予防啓発事業として介護予防教室・サロン・体操教室・脳の健康教室などの介護予防・生活支援サービスを行った。介護予防教室では、延べ314回、9,024人が参加し、出張介護予防教室では延べ98回、2,090人が参加した。		介護予防・生活支援サービス事業の訪問型及び通所型サービスの利用はなかったが、一般介護予防事業における介護予防教室やサロンの利用者数と団体数が昨年度より大幅に増加した。利用者ニーズに対応した事業内容となり、人と会う機会を提供することができ、介護予防を推進することができた。			
		順調に進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17047	介護保険地域支援事業(総合事業)		主	32,740 / 27,537	A	A
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		高齢者の生活と生きがいづくりの支援					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	高齢者の自立生活を支えるため、介護用品の支給、配食等のサービス・緊急通報システム・電話健康相談などの生活支援やタクシー料金助成事業の外出支援を行った。また、生きがいづくりの支援として、高齢者同士の地域での見守りや支え合いを促すため、シルバー人材センター、老人クラブ連合会などに事業費の補助を行い、支援した。		高齢者の家族介護支援として、介護用品の支給や配食サービス・緊急通報システム、電話健康相談などの生活支援やタクシー利用による高齢者への外出支援を行うことで、高齢者の地域生活の自立支援を推進した。また、団体への補助金交付も継続して行い、事業展開の支援を行った。			
		まずまず進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17048	介護保険地域支援事業(任意事業)		主	23,372 / 20,008	B	B
	17051	高齢者タクシー料金助成事業		主	20,793 / 18,051	B	B
	3009-2	地域団体支援事業(シルバー人材センター)		標	11,400 / 11,400	A	A
	3025	団体支援事業(在宅高齢者介護支援事業)		標	2,631 / 2,585	A	B
	3026	福祉事業(在宅高齢者介護支援事業)		標	1,783 / 1,724	A	B
	3027	給付事業(在宅高齢者介護支援事業)		標	1,104 / 910	A	B
	4014-2	害虫駆除対策費		標	92 / 90	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向 認知症高齢者等対策の推進							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	認知症高齢者とその家族の支援として、認知症カフェを市内2か所(月1回)で開催するとともに、亀山医師会の認知症サポーター医や地域包括支援センターの職員と連携し、認知症初期集中支援チームによる相談支援を行った。また、成年後見制度の利用相談支援を行った。		評価	認知症高齢者とその家族に対して、認知症カフェを毎月2回開催するとともに、亀山医師会等の多職種により構成されている認知症初期集中支援チームによる支援や成年後見人制度の利用相談の支援をするなど認知症高齢者対策を推進することができた。		
		まずまず進んでいる					
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17050	地域包括支援事業(社会保障充実分)		主	13,168 / 11,156	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果